

# “号外”<sub>,,</sub>パート24

発行所:四国時報

**無謀な控訴で悪足掻き!!**

**往生際の悪い「さや侍・川上道大」**

読者の皆様に、四国時報号外パート23(先月号)で、妄想新聞「四国タイムズ」社主である川上道大の不法報道による名誉毀損訴訟で勝訴のご報告をさせていただきました。この事実は川上自身の悪名で知られる四国タイムズ4(先)月号で臆面もなく自ら「敗訴」と報じて、性懲りもなく裁判三審制度を悪用した時間稼ぎの無意味な控訴を高松高等裁判所に申し立てました。このことは、川上とコンビの弁護士たちの常套手段で、控訴棄却は覚悟の上、次に上告し、これまた退けられると「裁判官の不当判決だ!!」等と暴論、放言を平然と行う奴等であります。控訴によって新たな証拠を示せる筈もなく、ごく短期間で結論が出ると思います。四国タイムズ5(今)月号には、さすがにネタ切れしたのであろうか、小生の記事はありませんでした。まあそれにしても四国タイムズの記事は毎号、支離滅裂で笑いも出ない。単なるクレイジーな男の独りよがり過ぎない。長期に渡り書き続けている「オリーブ・オペレーション終結間近!」も進展なし!ある訳がない!「サムライよ、今こそ立ち上がれ!」と小泉元首相からエールをもらった等と意味不明な記事を連載しておるが、誰がこんな馬鹿馬鹿しい話を信用するのだろうか。いかにも連繋し合ってるかの如く妄言を書き連ね、自らサムライを自称する妄想男・川上の神経を疑ってしまう。山口組屈指の名門「二代目若林組」(本部:高松市)に対する執拗な悪質記事には毎号多くの読者が呆れかえっているという。「あんだけ書かれたら誰やって怒るわな」「命助かっただけでも感謝せななあ」とやられて当然だという声が圧倒的に多く聞かれる。四国時報もこの件については号外で訴えてきたことだが、この川上襲撃事件は川上自身も非があり、己の自業自得から起こるべくして起こった事件である。よく考えてみてください。任侠社会であれ、一般社会であれ、己から因縁を付けて執拗に挑発すれば、相手から反撃されるのも当然であり、社会の常識である。「弱い犬ほどよく吠える」とはよく云ったもので、正に川上道大のことである。解決済みの事件をわざわざ掘り返し、都合よく暴対法や暴排条例に便乗し、紙面で強がり、挑発しまくり、いざ反撃喰らうと「やられたあ、撃たれたあ、どつかれたあ」と泣きわめく。こんな男のどこがサムライなのか?執拗に書き続けることは、逆に怯えきっている証拠でもあるのだ。こんな情報もある。以前、高松市内で偶然にも組員と出くわした時、何と川上はすぐさま携帯を取り出し、「狙われている。すぐ現場に来て欲しい…」と通報するほどの重度の被害妄想者だ。あれだけ「香川県警の腐敗」等と報じながら平然と助けを求める頓珍漢な男である。この狭い香川県で、しかも同じ活動拠点で、たまたま出くわすことだってあるだろう。取材等で人と会う時には、襲撃された時の傷を自慢げに見せまくるといふ。執拗に同じことを書き続けることを、川上自ら「オオカミおっさんのボディブロー」と呼んでいるが、いつから打ち(書き)続けているのか、いつまで打ち(書き)続けるのか、その効き目が一向に感じない。

平成26年5月11日

観音寺市出作町 603-3

TEL 0875-25-6883

編集発行人 木下俊明

こんな妄想新聞を議員さんや、一部の企業家へ年間6,000円の購読料を厚かましく請求しているという。「長期戦もとより覚悟!!」四国時報 VS 四国タイムズの法廷闘争第2ラウンドが始まる。川上は強がって「…今度は安心して法廷に出られる…」と公言した手前、待ちに待った「さや侍・川上」とのご対面を小生はもとより、感心のある人達は楽しみにしています。サムライ気取りで鎧兜でも身に付けて出廷してはどうかね川上よ。勝算のない無謀な挑みは、さらに己の恥を世間に曝すだけである。心ある弁護士なら「もうここで…」と促すものだから、生田弁護士も川上とはニコイチだけあって、馬鹿なお侍さんの悪足掻きに付き合うようである。もっともこの川上は、男としての面子や恥はお構いなしで、何とも感じず、むしろそれを演じ続けることが四国タイムズの売りなのだ。裁判で何一つ立証できず、敗訴したにもかかわらず、自らが書いた四国時報に対する中傷記事を「何ら訂正するところはない」と強がる川上。5月8日現在、第2ラウンドとなる控訴審の日程等について通知が届いておりませんが、川上の主張など物ともせず、啞えて放り投げてみせますので、今後ともご声援賜りますようお願い申し上げます。地裁での勝訴に、過去、川上から悪質な記事を書かれた方々や、現在も言いがかり報道をされている方から、「よくぞ、川上をやっつけてくれましたね!」と賞賛や激励を頂いた。またこんなアドバイスも頂いた。「木下さん、もっと東へ発信したらどうないですか? 東方面は川上にネタにされた人間が仰山おるし、あの川上がここまで叩かれよるのを知ってもろたら、益々ネームバリューも上がるし…」とおっしゃるとおりだ。これまで川上にネタにされたほとんどの方々が、書かれっ放しで泣き寝入りしたか、マッチポンプによる和解である。あれだけ散々書かれていた記事が何の結末も報じず、ピタリと止むパターンが過去いくつもあるが、これらは裏取引があったものと容易に察しがつく。こんな仕様もない男に泣き寝入りすることはありませんよ皆さん!!ところで、今頃になって又候こんな記事を目にした。観音寺グランドホテルの喫茶コーナーで、川上と浜田恵造香川県知事が会談した件で、白川晴司観音寺市長の名を出しているが、会談内容に因縁を付け、白川市長をターゲットにした報道の終結を、県内の大手建設業界の二社で大物M氏とH氏の仲介で、高松市内の「料亭●●●」で手打ちしたにもかかわらず、「ちょくちょく名前出しやがって…」と白川市長の支持者達が怒り心頭だ。大物仲介者の顔を潰し、信義に反すると言っているのだ。一旦、毒流した相手の名は二度と出さぬのが仁義というものだ。

四国時報に戦いを挑んだ「ラストサムライ・川上道大」

「木下よ!覚悟せい!」「シャキィ〜ンッ!」

長いさやから抜かれた鋭く光る刀…と思いきや

吉本新喜劇で池乃めだかが用いるおもちゃの短刀であった。

あつさり取り上げられ「さや侍・川上道大」に

四国時報を甘く見下していたことが仇となり

刀を失ったさや侍は流浪の旅を続けているという…